



R I. 第2620地区 静岡第2分区
三島西ロータリークラブ

週報

第1942号

事務所 静岡県三島市中央町4番9号 2F
TEL(055)976-6351 FAX976-6352
例会場 静岡県三島市梅名393-1 ブケ東海三島
TEL(055)984-0120
会長 野田 和秀 幹事 平出 利之



広重版画より 三島 朝霧

第2005回例会

2013.12.5晴

司 会 澤村康子君

国歌斉唱 四つのテスト

ロータリーソング 「奉仕の理想」
指揮 栗原達治君

会長挨拶 会長 野田和秀君

皆様こんにちは、ビジターの方々、ようこそ当クラブをご訪問下さり有難うございます。本日は、第2分区の伊藤アシスタントガバナーがお見えですので後程ご挨拶をお願い致します。早いもので、いよいよ師走を迎え次週はクラブ協議会、再来週は志田ガバナーの訪問、そのあと忘年家族例会と前半期のメインプログラムが控えております。

さて、今日はこの前時間がなくて尻きれトンポで終わってしまいました「おもてなし」について補足したいと思います。どうやらこの言葉は「倍返し」と共に今年の流行語大賞の候補に選ばれたとか、今や「おもてなし」は「omotenashi」として英語圏では使われ始めているようです。「武士道」と同じように、この前話しました辞典によれば、この「omotenashi」を説明する秀逸な表現がロサンゼルス新聞に掲載されているようです。その説明文の日本語訳は「おもてなしは、最も献身的で、もっとも洗練され上品なマナーによる日本の伝統的なホスピタリティの方法です。——」とあります。また別のところでは、「おもてなし」は「selfless hospitality」とのこと。ただのhospitalityに「無私無欲の」「私心のない」といった意味が付加されています。何故このことを取り上げたかといいますと、皆様ご承知のロータリーの「超我の奉仕」ですが、ロータリー百科事典によりますと初めは「Service Above Self」ではなく「Service Not Self」だったようです。提唱者のB・フランク・コリンズはNot Self つまり上記のSelflessに近い意味で「奉仕」を提唱されたのでしょうか？もしそうだとすれば、「超我の奉仕」を「おもてなし」に倣い「お奉仕」はないですから「ご

奉仕」と言えば我々日本人にはすんなり受け入れられるし、「ご奉仕をさせていただく」といった日本語の文脈から醸し出される「ころ」は、当たらずとも遠からずと思われるのですが、如何でしょうか？ 欧米人には「Selfless」や「Not Self」は受け入れがたいでしょうし、また日本のロータリーでも「ご奉仕」では軽すぎてロータリーの尊厳を貶めるのでやはり「超我の奉仕」でないといけない、ということかもしれません。それにしても「超我の奉仕」「奉仕の理念」「奉仕の理想」と肩がコリますね。以上会長の独り言をお許しください。

“こんにちは、ようこそ”

ゲスト 伊藤雅之アシスタントガバナー(長泉RC)
望月義明AG事務局(長泉RC)
ビジター 西島昭男君(沼津北RC)
稲葉良弥君(三島RC)

出席報告

	出席総数	出席率	メークアップ	修正出席率
前々回	43/49	87.76%	46/49	93.88%
今回	40/46	86.96%	会員総数	54名

欠席者 大畑君、窪田君、鈴木(正)君、登崎君、藤江君、矢岸君

幹事報告

幹事 平出利之君

①フィリピンの台風災害に募金をお願いします。12月12日苗栗東南RC記念式典で野田会長がフィリピンのRCに直接募金を渡します。

2013～2014年度
国際ロータリー会長
ロンD.バートン

ロータリーを实践し、みんなに豊かな人生を

おめでとう

会員誕生日 川名君、米山君
奥様誕生日 長田君

スマイルボックス

- ◆ 絵画同好会、勝間田さん、先日は美しく紅葉したお庭と新そばのお料理をいただき、ありがとうございました。
- ◆ 鈴木(郁)君、学校検診の為早退させていただきます。

年次総会

2014～2015年度 三島西ロータリークラブ理事候補者承認
会長理事 諏訪部 照久 (前年度に決定済み)
副会長理事 鈴木 郁夫
幹事理事 千葉 慎二
会計理事 長田 敏彦
理事 野田 和秀 鈴木 正二
佐々木雅浩 藤江 康儀
柴崎 恵子 矢岸 克行
森崎 祐治
SAA 三田 明宏

職業奉仕委員会

委員長 伊丹秀之君

職業奉仕委員会として7月7日に第1回目の打ち合わせを行った際、国立遺伝学研究所がそばにありながら一度も入った事がない、見学させてもらえないかという事で、諏訪部敏之会員のご尽力で見学の許可をいただきました。講師の梅原先生の都合もあり例会日を変更し見学を行いました。担当の方々のご協力ありがとうございました。又、駐車場を貸して下さいました小野会員、相山会員にはご協力賜り誠にありがとうございました。

卓話

「ロータリーブランドと広報について」

静岡第2分区分長伊藤雅之君

志田ガバナーによる長泉RC公式訪問が行われた時のことです。渡邊会長から、長泉RCの今年度の活動方針等説明をされた中で、長泉RCでは、長泉町で行われる女子サッカー大会「なでしこカップ」を毎年応援しているが、年々規模が大きくなり、今年は『未来の夢計画』の一環として大会の横断幕を贈ることにしました。それで、ロータリーマークと長泉RCの文字を横断幕のどの位置につけるかをクラブ内で協議したところ、右隅にあまり目立たないように奥ゆかしく、つけようということになりました。陰徳という考えからのことだそうです。志田ガバナーからは、そんなに遠慮なさらず、もう少しロータリーロゴを大きくしてもいいのではないですかと言われました。これは、ガバナー方針の一つに「ロータリーブランドの認知度向上」のために、広報活動強化という考えからだと思われる。『ブランドとは、国旗』楽天の三木谷社長は、ブランドについてこんなことを、言っています。これからの企業は、自分たちの理想やイデオロギーを明確に出す姿勢が不可欠になる。自分たちがどういう社会を目指して活動を展開していくか旗幟を明確に打ち出せるかどうか企業が成長できるかどうかを左右する。その意味でブランドは国旗だと思う。ブランドは所有する人のステータスを示すものではなく、所有する人の理念を表すものである。だからこそ、ブランドという国旗を大切にしなければならない。これをロータリーに合わせてみると、ロータリーブランドは、ロータリアンのステータスを示すものではなく、ロータリーの理念を表すものである。だからこそロータリーブランドの国旗を大切にしなければならないとなります。

地区協議会の、会長幹事部に於いて、ロータリーの友編集長の二神氏より、「ロータリーブランドの、公共イメージと認知後の向上」という講演がありました。ロータリーブランドをより知ってもらうために、広報に力を入れてくださいとの話を中心でした。講演後の質疑応答のなかで、「陰徳と広報活動の関係から少し抵抗がある」との質問がありましたが、その回答として、広報と宣伝は違う、広報は事実関係を知らせることであるから、大いにやるべきであるとのことでした。

先日、ある書道展に行きました。その場で、お子さんたちが10人くらい並んで、書を書いていました。その中で、小学4年生の男子生徒が、「大道無門」と書きました。「どういう意味？」と聞いたところ、「堂々と進め」とのことです。

ロータリーブランドへの広報も「大道無門」でいいのでは、と私は考えます。皆さんは、どのようにお考えになるのでしょうか？

(週報担当:西本和夫)